



矯正施設における作業療法の過去・現在・未来

講師：吉田裕紀

所属：常葉大学保健医療学部作業療法学科

“再犯者率”という言葉がニュースやネット記事で見たことがあるかもしれない。令和2年の再犯者率は49.1%と非常に高く、犯罪者の2人に1人が再犯を行っている状況だ。刑務所を出所しても、かなりの数の元受刑者が、再び刑務所へ戻っており、再犯防止は、我が国にとって喫緊の課題である。

また、刑務所内における課題としては、日本全体の少子高齢化と比例するように、刑務所の中でも高齢化率が上昇し、身体機能や認知機能が低下している高齢受刑者の割合が高い。加えて、知的障害や精神障害を抱える者も増加傾向にある。刑務所は懲罰を受けるという観点から、規律や規則が厳しく、原則、集団行動が求められる。しかしながら、高齢受刑者や障害受刑者は、心身の状態に左右されやすく、集団に適応できないことが多いため、受刑生活上の課題が生じている。集団に適応できない場合は、当然ながら“個別性”を重視したマネジメントが必要となろう。

「参院法務委員会は、懲役刑と禁錮刑を廃止し、“拘禁刑”として一本化する刑法改正案を自民、公明両党などの賛成多数で可決」

最近のニュースとしてご存じの方も多いと思う。懲役刑や禁錮刑、拘禁刑という用語の説明はここでは割愛するが、端的に言えば、これからの刑務所は懲罰よりも教育・指導に力を入れ、個別性が重要視されることとなる。高齢受刑者や障害受刑者の心身・認知機能の改善と、更生させるための社会復帰支援、そして再犯防止に、作業療法士の力が必要になってきている。

—犯罪者に対して作業療法を行う—

作業療法士は法制化されて以降、半世紀以上に渡り、障害を抱えながらも前を向いて歩み続ける人々の心に寄り添い、支えてきた。それが作業療法の最も大きな魅力であり、社会的な役割だと思う。罪を犯したような、いわゆる“悪人”に対して作業療法を行うことを疑問に感じたり、不快に思ったりする作業療法士がもしかしたらいるかもしれない。しかしながら、彼らが再犯を続ければ、新たな被害者を生むだけである。犯罪者を更生させることは、結果的に社会全体を守ることに繋がるかと私は考えている。

さて、本学会のテーマは、「伝えよう！作業の魅力～健康を支える作業の力」である。講演をさせて頂く立場ではあるが、私自身もまだまだ経験が浅く、日々、この分野から多くのことを学ばせていただいている。本講演を一つの機会として、私も今一度、作業の魅力、そして作業の持つ力とは何か考え、学習する機会としたい。

略歴

氏名：吉田裕紀（よしだゆうき）

現職：常葉大学 保健医療学部 作業療法学科 助教

【学歴】

2004年3月 国士館大学 政経学部経営学科 卒業

2008年3月 ユマニテク医療専門学校 作業療法学科 卒業

2017年3月 中部大学 生命健康科学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程 修了

【職歴】

2008年4月 医療法人大仲会 大仲さつき病院

2012年4月 医療法人 久居病院

2018年3月 専門学校ユマニテク医療福祉大学校 作業療法学科

2018年9月 常葉大学 保健医療学部 作業療法学科

【主な活動】

法務省名古屋矯正管区内岡崎医療刑務所 非常勤

保護司

リハビリの専門家による刑務所出所後等のオンライン支援を進める会 Go-Go-OT-Net 事務局長

矯正施設の入所者等に対する社会復帰に向けた適切なかかわりを考える会 Moj-OT-NET 会員

【主な所属団体】

日本作業療法士協会，静岡県作業療法士協会，日本司法精神医学会，日本更生保護学会，NPO法人UBOM研究会，Go-Go-OT-NET，MOJ-OT-NET，浜松市中区保護司会